

## 7. 農場 HACCP 認証養豚場における飼養衛生管理基準遵守指導の取組

宇佐家畜保健衛生所  
○荒牧麻里子・(病鑑) 吉田史子

【はじめに】近年、食の安全・安心に対する消費者の意識向上により、畜産農家が農場 HACCP に取り組む重要性が増している。農場 HACCP に取り組む利点は、農場 HACCP 方式の衛生管理により飼養衛生管理基準の遵守を図ることで、安全安心な畜産物を生産することを対外的にアピールできることにある。令和 2 年以降の家畜伝染病予防法および飼養衛生管理基準の大幅改正にあたって、管内の農場 HACCP 認証養豚場で、農場 HACCP システムを活用して飼養衛生管理基準の遵守徹底に向けた取組を行ったので、その概要を報告する。

【農場概要】当該農場は母豚 280 頭規模、繁殖農場と肥育農場に分かれるツーサイト方式一貫経営。繁殖、肥育両農場で平成 28 年 3 月から農場 HACCP の取組を開始し、平成 30 年 8 月 13 日に肥育農場が認証取得、令和 3 年 10 月以降更新予定。HACCP チームは農場従業員（繁殖 3 名・肥育 2 名）、動物医薬品販売メーカー、飼料会社、畜産協会、家保で構成。令和元年に経営者 A の弟 B が就農し、令和 2 年度に A から B へ HACCP チーム責任者を引継いだ。2 ヶ月に 1 回 HACCP チーム会議を実施。

【取組内容】HACCP チーム会議において、家保による指導を中心に飼養衛生管理基準の新設項目への対応を検討し、以下の対策を実施。

(ア) 家畜防疫に関する基本的事項：①飼養衛生管理者の選任②入退場記録の項目増設

(イ) 衛生管理区域境界部および区域内における病原体対策：(境界部) ①飼養衛生管理マニュアルの掲示による衛生管理区域入退場時の更衣・消毒実施の周知徹底②農場関係者向けの入場ルールを記載したパンフレットの配布・掲示③来場者更衣室をテープで視覚的にエリア分け (区域内) ④防護柵・防鳥ネットの設置および維持管理⑤区域内の除草・整理整頓⑥畜舎専用長靴の着用周知徹底⑦出荷作業等畜舎内外での作業を伴う飼養管理手順の再検討

これらの対応について、以下の通り評価を実施。①従業員の飼養衛生管理スキル：A・B による教育訓練プログラムの実施。日常飼養管理の中でその効果を確認し、個人の力量差を把握しチーム内で共有。レベルに応じた個別再教育を行い、従業員のスキル向上を図った。②飼養衛生管理基準の遵守状況：家伝法第 51 条第 1 項に基づき、家畜防疫員が年 1 回確認。HACCP 取組開始直後の H28 年度末時点からほぼ全ての項目を遵守。令和 2 年 7 月の改正直後は一時的に遵守割合が 90%を下回ったが、令和 3 年 10 月時点には 96%まで向上。

【まとめ】当該農場では、改正後の飼養衛生管理基準遵守に向けた取組として、農場 HACCP システムを活用して従業員および農場関係者が一同に介して対応を検討し、面的な周知徹底を図った。本会議は肥育農場の農場 HACCP システム運用を目的とするが、繁殖農場でも肥育農場と同様の従業員指導がなされ、農場全体としてのバイオセキュリティレベルの向上が認められた。今後もこの取組を維持し、家保は必要に応じて助言指導を行い、農場を主体とした飼養衛生管理基準の遵守状況改善を継続し、家畜の伝染性疾病の発生を予防するための一翼を担っていきたい。